

つくばねvol.27no.3

● 目次

- 1 視覚障害者の図書館利用について
- 4 明治の理科教科書と「理科」の出現
- 6 図書館情報大学実習生 実習体験記
- 8 シリーズ・電子図書館の現状③
- 10 Ask Us としょかんミニガイド
- 11 本学教官寄贈著書紹介
- 12 とびっくす
- 14 掲示板

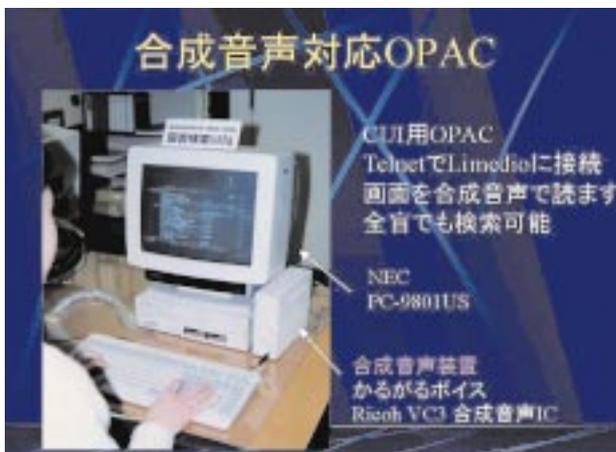
視覚障害者の図書館利用について

中田 英雄

視覚障害とは？

視力の低い人たちは多数いますが、その多くは眼鏡をかけるとはっきりと物が見えます。一方、眼鏡をかけたり、眼の手術をしたりなどいろいろな処置をしても視力の回復しない人たちがいます。このような人の中には、明暗がまったくわからない人、光の有無がわかる人、眼の前で指の数がわかる人、普通の活字や文字が読めない人、直接読めないので大きな活字に拡大する人、特別なレンズや補助具を用いる人がいます。視覚障害者とよばれる人たちです。視覚障害者と一口に言っても、日常生活で点字や白杖を用いる盲人（視力

0.02未満）と新聞の文字の読みや歩行などに困難をとまなうロービジョン（Low vision）あるいは弱視とよばれる人（視力0.04以上0.3未満）がいます。ロービジョンの人の中には、視野が狭かったり、視野の一部が欠けていたりする人もいます。したがって、視覚障害者が近くのものや遠くのものを見たり、識別したりすることは大変困難です。まして図書館のような広い空間の位置関係や配架の状況を把握し、自力で目的の場所に行き着くことは大変困難です。配架されている場所に到着しても、頭上にある書名や雑誌名を読むことはできません。このような視覚障害者に利用しやすい図書



館について考えてみます。

1) 出入り口

点字ブロックの上に自転車などの障害物があると、進路を妨害することになります。車輪に白杖が巻き込まれて、白杖が折れることもあります。階段に鮮やかな色のテープなどが貼ってあるとロービジョンの人は安心して歩けます。

2) 入・退館ゲート

係の人は、視覚障害者が入館したときはゲートまで案内し、入口と出口のゲートの位置関係と、身分証明書をゲートに提示する位置を具体的に教示することが大切です。入口のゲートは「そこ」にありますとか、出口ゲートは「あちら」にありますと言われてもわかりません。「あちら」、「そちら」、「それ」などの代名詞を使わないようにしましょう。

3) 利用案内

点字で作成された利用案内や大きめの活字で印刷された利用案内があると便利です。点図で図書館の構造の概略が描かれているとなおよいでしょう。係の人から図書館の構造や配架の状況を口頭で説明されても、すぐには理解できないのです。

4) 受付時の対応

受付時の接し方がその図書館の視覚障害者に対するサービスの質を決定することが多いようです。このときに受けた印象が再訪するかどうかの判断の目安になるといっても過言ではありません。白杖をもった人やロービジョンの人の案内の仕方を知っておくことも大切です。絶対に白杖をつかんで案内しないでください。案内する人は視覚障害者の左側に立ち、右腕を直角に曲げ、その

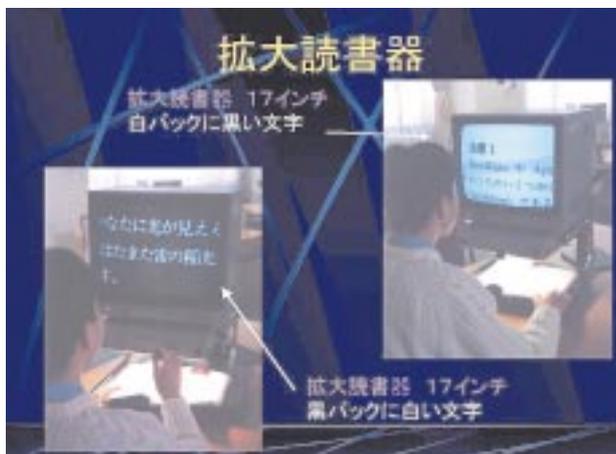
肘を視覚障害者に軽く握ってもらいます。歩きながら、右手には何があり、左手には何がありますと館内の設備、非常口やトイレの位置、利用者の様子、雰囲気などを説明してあげましょう。これで視覚障害者はおおまかに館内の様子を把握することができます。コピー機の配置やコピーの仕方、エレベーターの位置についても説明するとよいでしょう。エレベーターの行き先階や到着階が音声で伝えられると便利です。

5) 文献検索と支援テクノロジー

点字使用者はコンピュータを使うときに音声合成装置を併用しています。画面の文字を読み上げるソフトウェアは、点字使用者には不可欠です。少なくとも文献検索用コンピュータの1台に音声合成装置を備えるべきでしょう。入手した文献はその場で読みたいものです。依頼があったら点字使用者が入手した文献を一部分でも代読してあげましょう。コンピュータ利用の手引きも点字で作成してあるとよいでしょう。また、ロービジョンの人には画面を任意に拡大できる装置を備えたコンピュータが必要です。ロービジョンの人のために拡大文字で作成された利用の手引きも備えるとよいでしょう。本を配架先で見つけ、その場で読もうとしても薄暗くて読めないことがしばしばあります。書架の近くに照明スタンドがあると便利です。また、館内の各階に拡大読書器や視覚補助具（拡大鏡など）が備えてあるとよいでしょう。このような設備があると高齢者も助かります。拡大読書器を用いると文字をある大きさまで拡大することができると同時に、黒色の文字を白色にし、背景の白色を黒色にすることもできます。ロービジョンの人の一部にはこの状態で読んでいる人がいます。別室に点字使用者のためのコンピュータやロービジョンの人のための拡大装置を備えたコンピュータが整備されているとなおよいでしょう。図書館利用の機会均等を図るために視覚障害者用の支援テクノロジーを整えるべきだと思います。筑波技術短期大学視覚部の図書館は参考になります。

6) 館内案内板

視覚障害者には、館内にある案内表示は見にくいもののひとつです。薄暗いところに設置してあ



ったり、点字表記がなかったり、文字が小さすぎたり、頭上に設置してあったりするとお手上げです。案内の表示にも入念なデザインと心配りが必要です。

7) 点字毎日新聞

視覚障害者のための新聞が週1回毎日新聞社から発行されています。これはわが国で唯一の点字新聞です。点字毎日新聞には、一般のニュースのほかに視覚障害者に関する内外の記事が掲載されています。視覚障害者にとって点字毎日新聞は、世界の出来事を整理された情報として入手できる貴重なメディアです。点字使用者のために点字毎日新聞を用意すべきでしょう。また、点字毎日新聞の活字版も同時に発行されています。ロービジョンの人だけでなく視覚障害者の教育やリハビリテーションに関係する大学院生や教官などにも役立つ情報がありますので、これも用意すべきだと思います。

8) 文献複写申込用紙

点字使用者は、文献複写申込用紙に直接記入することはできないので、代筆してもらうことになります。代筆の依頼があった場合は、気持ちよく応じてほしいものです。ロービジョンの人の中にも申込用紙に記入することが困難な人がいます。用紙の狭い空白を埋めることができないのです。銀行や郵便局の振込用紙も同じです。大きめの申込用紙があると便利です。文献到着のお知らせはe-mailでサービスしてほしいと思います。申込用紙に特別な支援が必要かどうかを記載する欄があるとよいでしょう。コンピュータ画面から文献複写の申込みができるようになると便利だと思います。

9) リーディング・サービス

入手した文献を点訳するには相当の日数を要します。点字使用者は手にした文献をその場ですぐに読めないのです。点字使用者の目となってくれる人の支援が必要です。そのためにも対面朗読システムを充実する必要があります。対面朗読のほかにテープレコーダーに録音する方法もあります。ロービジョンの人にもこのリーディング・サービスが必要です。文献の全文とはいいいませんが、目次や抄録だけでも読んでもらおうと助けになります。

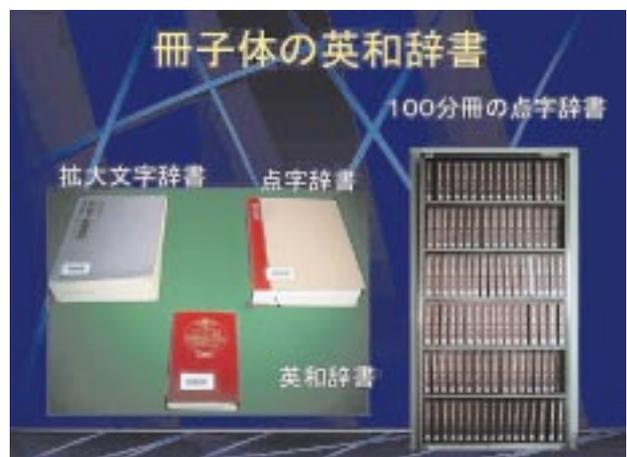
10) バリアフリー図書館

視覚障害者は社会的バリア、情報のバリア、物理的バリア、制度のバリアに直面しているといわれます。図書館にもこれと似たようなバリアはないでしょうか。制度のバリアは、規則のバリアと言い換えてもいいでしょう。バリアを完全に解消することは困難ですが、それに向かって努力することが大切です。ある視覚障害者は、「図書館の担当者に改善してほしいと申し出ても一向に改善されないの、二度とその図書館を利用しませんでした。極端かもしれませんが、視覚障害者が怪我をしたり、命を落としたりしないと環境は変わらないのです・・・。」と語ってくれました。

物理的なバリアを解消し、最新の支援テクノロジーを導入したからといって、視覚障害者の直面するバリアが解消されるわけではありません。最も重要な点は、視覚障害者のニーズを考慮した対人サービスにあると思います。思いやりのあるサービスが大切です。一方で、視覚障害者の自助努力も必要です。バリアにくじけないで図書館を利用し、現有の施設・設備・サービスを有効に活用してほしいと思います。改善点があれば率直に申し出るべきです。関係者は視覚障害者の意見に耳を傾けてほしいと思います。

コンサイス英和辞典を点訳するとB5判で何冊になるかご存知ですか。100冊になります。今は、コンピュータ内蔵の辞書が利用されています。100冊の点字辞書には、視覚障害者の学問に対する強い欲求と苦勞がこもっているようです。

(なかた・ひでお 心身障害学系助教授)



(筑波技術短期大学視覚部
村上佳久先生提供図版)